

学級閉鎖や分散登校等を想定した「オンライン授業スタイル」

変異株による感染拡大などの最悪の事態に備えて、以下の通り授業スタイルを想定しました。万が一の場合を覚悟し、教育活動が円滑に行えますよう準備を進めておりますので、予めご了承いただきたく存じます。

「2つの措置」の想定

文部科学省の8月27日付「対応ガイドライン」に基づく

I 感染拡大 … 校内で児童や教職員等の感染等が判明した場合など

学級閉鎖等

- (1) 同じ学級で、2名以上の児童の感染（濃厚接触等）が判明するなど、**学級内で感染が広がる可能性が高い場合は、可能な限り早期から、学級閉鎖の措置をとる。**
- (2) 学年・学校の感染（濃厚接触等）の場合は、同様に、学年・学校閉鎖の措置をとる。

この場合、感染拡大防止のため、児童も家族も、登校することは一切できない。「3つの授業スタイル」を想定したオンライン授業を実施する。

II 感染防止 … 校内の感染等はないものの、地域等で懸念が高まった場合など

分散登校等

- (1) 令和元年度末から一斉に臨時休校となったケースのように、**校内での感染拡大の兆候がない場合にも、行政の判断で休校や分散登校等の措置を取る場合がある。**

児童（家族）や教職員等に感染等がない場合には、完全な休校は考え難く、学級の三密を避けるための分散登校（グループ毎に授業日や授業時間を分散するなど）が想定される。この場合、感染防止策を徹底した上で、児童や家族も、限定的に登校することができる。

「3つの授業スタイル」の想定

同8月25日付「基本的対処方針等」に基づく

I デジタルスタイル II ハイブリットスタイル III アナログスタイル

Classroom + Meet (Zoom) + Sky Menu

提出もオンライン

紙と鉛筆も活用

Classroom + Meet (Zoom) + Sky Menu

課題の配布や提出等は対面

紙と鉛筆も活用

Zoom

タブレットを活用できない緊急時を想定し、通信負担が軽いZoomで会話をしながら、担任が学習内容を指示し児童がアナログで取り組む。

教室の日常的な授業の再現

- 通常の時間割を基本とする。毎時間、出欠確認及び健康観察を実施する。
- 児童にとっても、教員にとっても、デジタルで実施する困難さやストレスを軽減するために、**可能な限り、教室の授業と同じスタイルで実施する。**
 - **デジタル**：Meet (Zoom) は、先生の指導、児童の発表や話し合いの場面で利用
Sky Menu は、互いの画面やノート等を見合う学び合いの場面で活用
 - アナログ**：教科書、ノート、ワークシート等、教室と同じように紙と鉛筆を使用
- 全く登校できない状況の場合は、「完全オンライン授業」とし、Meet や Zoom とともに、Sky Menu 等を活用して、**課題等の配布や提出は、全てデジタルで実施する。**
- 中休み、昼休み、給食の時間（自宅の児童のみ）は、児童同士の自由な会話等ができる。

ポイント

- ・通常の授業よりも、自力解決（個人学習）を長く設定し、タブレット画面を長い時間（**15分間を上限とする**）注視しないよう授業展開を工夫する。
- ・話し合い活動、ふりかえりは、必ず設定し、児童の主体的な学びを保障する。
- ・学習したノートやワークシートなどは、**登校時もしくはクラウドで必ず提出し、先生が確認、評価してから、返却する。**

45分間の授業の構成

基本例

目標設定

一斉指導

自力解決

学び合い

まとめ

振り返り

Sky Menu で課題配布

教科書、ノート、ワークシート

Sky Menu で共有・提出

ノート

Meet (Zoom) ON 10分間

Meet (Zoom) OFF 20分間

Meet (Zoom) ON 15分間